

## 健全な青少年に



新聞やテレビで報じているように、青少年の非行は目にあまるものがあります。この深刻な事態を打開するためには、家庭・学校・地域社会・行政が一体となって、地道な運動を続けていくことが必要です。広く市民のみならず、より身近な問題として御理解と御協力をいただくため、広報しらかが臨時号を本年度三回発行することとなりました。今回は、中学生の考え方や意見を聞くために、座談会やアンケート調査を行いました。どうぞ一読していただき、青少年の健全育成のために御協力ください。

### 青少年を守る市民憲章

本市では、青少年の非行をなくすために、自主独立の意志をしっかりと持った子供たちを育成するため、市民会館の御協力を得て積極的に対応してまいります。

昨年七月、平塚市青少年問題協議会において、青少年対策の市協議案として、青少年・平塚市青少年対策の基方針を、次の四本の柱にまとめました。

- 一 家庭と親の果たす役割  
青少年の問題行動は、家庭に何らかの原因があると言われている。親がその責任を自覚し、自家教育を正し、発達段階に応じたしつけや養育態度が、子供の人格形成に大きく影響することを考え、子供に接することが必要である。
- 二 学校と教師の果たす役割  
学校と教師は、親が地域社会の人々からも、親類の対策と見られており、子供たちの健全育成について、大きな期待が寄せられている。学校と教師は、この大きな信頼と期待をこたえなければならない。

三 地域社会と大人の果たす役割  
家庭や学校が十分に、その役割を果たすことが、地域社会との連携、協力が重要である。その際、青少年の育成に果たす地域社会の役割は、ますます大きくなっていく。地域社会の大人たちが、今こそ、社会の教育機能を回復するための積極的な行動が必要である。

四 行政の果たす役割  
青少年の非行を初めとする問題行動に対処するため、行政は、その責任を自覚して、行政関係者として、適切な助言、援助を行うことが重要である。

しかし、青少年の問題行動の背景には、広く深い社会的要因があり、青少年の問題行動への対策を始めるに当たっては、社会的要因を探究し、青少年の健全育成の推進にその基本として取り組む必要がある。



## 人間としての基本的なしつけや 思いやる心を

平塚市長  
石川 京一



私たちのまち平塚の将来をどうするか。その意味でも、人考えるべき、西部・中部の閉鎖的・閉鎖的である家庭に育つ青少年の振興、高福祉社会への対応など、取り組まなければならない課題が、多くある。青少年の健全育成は、フロント面での重要な課題の一つです。青少年非行は、後述の「ピーク」とも言われ、低年齢化・粗悪化が著しく、さらには「シッター」や「地せい刑」の乱用など、薬物汚染が広がっている。平塚市の青少年問題が他市と比べて深刻化しているのは、何となくおぼやかし、本市で生まれた青少年問題の調査を怠り、多くの関係者の方々が真摯に取り組まれ、論議・実践を通じて、れた御努力のおかげで、結果が上々であると考えています。しかし、現在のよう不安定な世の中、自然と手をまわらなければならない青少年の増加、そして世代を超えたつながりも、青少年の健全育成には、重要な要素です。青少年の健全育成は、いつの時代でも重要な要素であり、開明なく市民のみならず、市民のみなさんに押し進めていただくには、何らかの問題でも、取り組まなければなりません。

「親の心は子知らず」といわれてはいますが、青少年の健全育成に、親の心は、切な役割があると思います。子供たちに健全な方法を教えるのではなく、お話を聞かせ、また大人自身がお手本を示すことです。私たちが物や金のみを重視したり、自分本位の生き方をすれば、それを見習った子供たちは、強い影響を与えてくれると思います。

形骸化の場である家庭に育つ教育は、非善に大切なことでもあります。人間としての基本的なしつけや、相手への思いやる心が、青少年の健全育成や教育の基盤となればならないと思います。

平塚市では、昭和五十年に人間尊重を基本理念に、初代平塚市長が、関係者を巻き込んで、心もれぬ個性豊かなまちづくりの実現を目指してまいりました。

郷土平塚の未来が希望され、後継者があふれるまち、子供たちが安心して育つまち、市民のみなさんが、一人一人の力を発揮して、道徳なく、非行を解決する効果もあつて、二つ三つの小さな活動が積み重なって、市民のみなさんの心や行動が、これからの活動に対する、市民のみなさんの温かい御理解と御協力を御願い申し上げます。

昭和五十二年、国際連年の年であり、国の内閣にわたりの女性大臣が、わが国をリードする、青少年の健全育成は、時代を超えた人類共通の願いであり、時を待たず、所を違えず、真剣に取り組んでいくべきことか。





# 学年生徒会の育成

## 自主性をめざした遠足



現在、中学の各中教員が、学年生徒会の育成に力を入れている。その取組の中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。

学年生徒会の育成は、部活動に力を入れる効果もあつた。学年生徒会の育成は、部活動の育成と並行して進められている。その中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。



具体的には、学年生徒会の育成に力を入れている。その取組の中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。

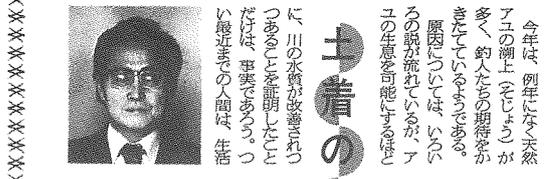
学年生徒会の育成は、部活動に力を入れる効果もあつた。学年生徒会の育成は、部活動の育成と並行して進められている。その中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。



自主性をめざした遠足。学年生徒会の育成に力を入れている。その取組の中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。

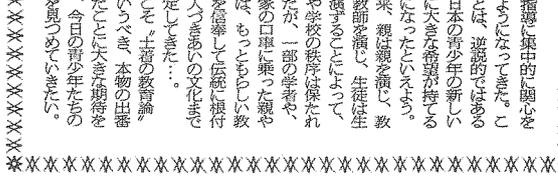
学年生徒会の育成は、部活動に力を入れる効果もあつた。学年生徒会の育成は、部活動の育成と並行して進められている。その中心は、学年生徒会の自主性をめざした遠足にある。

# 土着の教育



今年、例年になく熱い夏がやってきました。多くの人々の期待が寄せられています。その中心は、土着の教育にある。

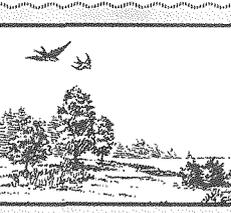
土着の教育とは、地域の文化や風土を大切にし、子どもたちに伝えることです。これによって、子どもたちは地域社会の一員として成長することができます。



土着の教育の重要性。地域社会の一員として成長するために、土着の教育は不可欠です。

土着の教育とは、地域の文化や風土を大切にし、子どもたちに伝えることです。これによって、子どもたちは地域社会の一員として成長することができます。

# 学校訪問



この学校訪問は、市内各中学校を順番に紹介していくというもので、今回は江陽中学校にお願いしました。企画・編集すべて江陽中学校新聞編集委員会の手づくりです。

江陽中学校は、八幡山公園の一角にあり、市立第一の公立中学校として知られています。生徒数は約1,000名、学級数は18のクラスがあります。

本校の特色は、部活動の盛んなことと、生徒の自主性を重んじていることです。特に、学年生徒会の活動が盛んで、生徒のリーダーシップを育てています。

## 毎月生徒会目標を

江陽中の生徒会は、会長の田丸君を中心として、毎月目標を立てています。その目標は、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることです。

今年度の目標は、部活動の盛んなことと、生徒の自主性を重んじていることです。特に、学年生徒会の活動が盛んで、生徒のリーダーシップを育てています。

## 生徒の手による委員会

今年度の委員会活動は、生徒の手による委員会を中心に進められています。委員会は、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。

委員会の活動は、生徒のリーダーシップを育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。委員会の活動は、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。

## 中体連で優勝を

江陽中の中体連は、今年度の大会で優勝を収めました。これは、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることに貢献した結果です。

中体連の活動は、生徒のリーダーシップを育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。中体連の活動は、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。

## 保健委員会による池のそうじ

保健委員会が、学校の池をきれいにしました。これは、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることに貢献した結果です。

保健委員会の活動は、生徒のリーダーシップを育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。保健委員会の活動は、生徒の自主性を育て、地域社会の一員として成長させることを目的としています。